

1/11

作業安全・商売繁盛を願って

太子祭開催



1月11日に、建築の神様として聖徳太子を祭った太子碑が建つ大田原神社において、「太子祭」が行われました。

建設業界の仕事始めの儀式でもある本祭りでは、烏帽子・狩衣姿の大田原大工組合員10名が、伝統道具を用いて、長さ4メートル、直径40センチのご神木を角材に仕上げる「新始之儀」を行い、1年間の作業安全や商売繁盛を祈願しました。

1/12

新春恒例のにぎわい

大田原花市



1月12日に大田原市の新春恒例行事である「大田原花市」が開催され、白河信用金庫前から栄町屋台収納庫の前までの約500メートルに約150店の露店が軒を連ねました。

今年1年の健康や家内安全、商売繁盛を祈願して、鯛や小判などをあしらった豪華な熊手や、色とりどりのだるまなど、縁起物を買求める人で賑わいを見せました。

今年は開催日が土曜日と重なったこともあり、日中から多くの人々が訪れ、会場内のあちこちで新年のあいさつを交わす声が聞こえました。

1/16

株式会社ニコンの新本社で出店

大田原市物産展



1月16日に、株式会社ニコン(東京都品川区)の新本社で大田原市物産展を開催しました。

株式会社ニコンは、本社を東京都港区港南から東京都品川区西大井へ移転し、令和6年7月29日より業務を開始しています。

大田原市には、株式会社栃木ニコン(実取)が所在しており、そのご縁で新社屋初の物産展を開催する運びとなりました。

出店当日は、市の特産品である米やいちご、日本酒、栃木三鷹唐辛子、野菜などを販売し、市の魅力を広くPRしました。

1/21

長年の寄附ありがとうございます

大田原信用金庫からの寄附



1月21日に、図書館への寄附として、大田原信用金庫の駒場 善一 理事長から相馬市長に寄附金50万円の目録が手渡されました。

いただいた寄附金で購入した児童図書や視聴覚資料などは、こどもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくための環境整備を目的に、大田原図書館内に設置された「だいしん文庫」に配架します。ありがとうございます。

1/22

酒米の品質でグランプリを受賞

五月女農場表敬訪問



山口県の酒造会社が主催した酒米(山田錦)の品質を競うコンテストでグランプリを受賞した、五月女農場の五月女 文哉さんと長女の愛花さんが市長を表敬訪問しました。

五月女さんは酒米の栽培技術や、栽培経緯などを市長へ報告し、喜びを語りました。

本コンテストでは、2019年にも市内の農家がグランプリを受賞しており、今回で2回目のグランプリ受賞となりました。全国に「米どころ大田原」を知っていただく機会となり、今後、本市でのさらなる水田農業の活性化が期待されます。

1/23

さらなる飛躍を誓って

IBKO 第2回ワールドカップ空手道選手権



令和6年11月23日に「IBKO第2回ワールドカップ空手道選手権」が東京で行われました。本大会において準優勝に輝いた選手3名(大田原小2年 八木沢涼奏さん、市野沢小5年 船山結菜さん、若草中1年 八木沢実琴さん)が空手道場の師範である峰岸友浩さんと本大会に出場した選手(市野沢小2年 船山颯汰さん、佐久山小5年 鈴木芹那さん、親園中1年 鈴木竜人さん、峰岸誠人さん)とともに市長を表敬訪問を行いました。

選手の皆さまは「次は優勝できるようにさらに努力したい」と、市長の前で新たな飛躍を誓っていました。

1/24

学校給食でお祝いと感謝を

市制施行 70 周年記念「与一くんランチ」



本市小中学校では、大田原市や栃木県を産地とする食材をなるべく多く給食の献立に取り入れ、食材や生産者に感謝する「与一くんランチ」の日を年2回設けています。

今年は、市制施行70周年記念給食として、古代米を使用したごはんやお米のババロア、モロのねぎソースなどが提供されました。こどもたちからは「ごはんの食感がプチプチしておいしい」「デザートのパッケージが可愛い」との声があり、積極的におかわりする様子が見られました。

1/28

日頃の備えが文化財を守ります

文化財防火デーに係る消防訓練



「文化財防火デー」と定められている1月26日は、法隆寺金堂壁画が焼損した日(昭和24年)に当たります。

那須地区消防組合では、1月22日から28日にかけて大雄寺ほか市内寺社、文化施設において防火訓練や消防設備の点検を行いました。

日頃から国民共有の財産である文化財の防火に対する意識を高め、文化財を愛護していく活動にご協力をお願いします。



金丸菊の会

投稿者：金丸菊の会 会長 戸村 聖一

金丸菊の会は、菊作りを趣味とする方々の集まりで、菊栽培技術の普及や向上を図り、会員相互の親睦を深めることを目的に活動しています。

毎年11月に開催される『大田原市菊花展』への出展を目指し菊作りに勤しむとともに、初心者への技術指導にも力を入れています。

私達と一緒に活動できる会員を募集しています。大田原市の花『菊』を育てて、美しい花を咲かせてみませんか。

問 金丸菊の会事務局 森本 武夫

TEL 090-4392-1080

✉ kanekikukai@gmail.com



菊の会HP

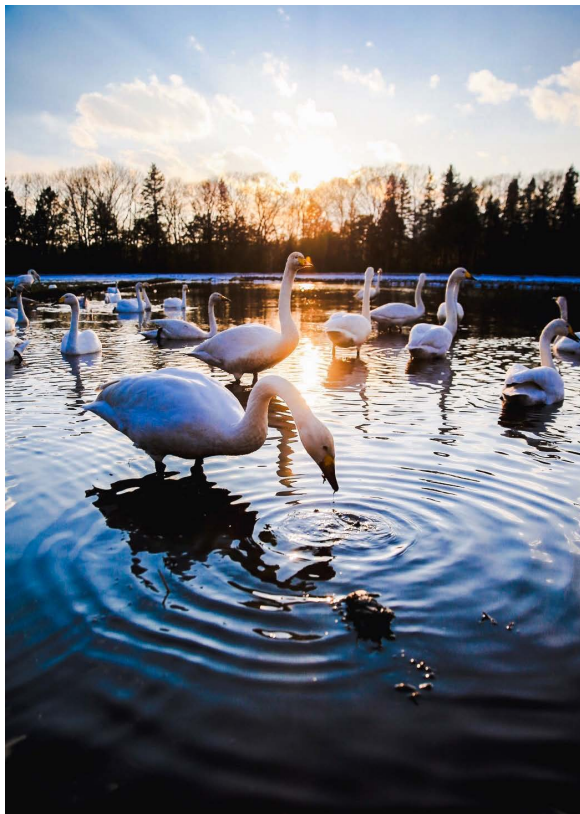


『夕暮れと白鳥』

投稿者：ポムポム

撮影場所：羽田沼付近

数年前の写真ですが、大田原でこんなに白鳥が見られるとは思いませんでした。



いいとこ
撮り



市史編さんだより vol.53

令和6年12月1日、大田原市制施行70周年記念式典が那須野が原ハーモニーホールで盛大に行われ、相馬 憲一 市長は「中長期的な視野で新しいまちづくりを」と力強く訴えました。市内の中学生たちが市歌「大地、空を映して」を合唱し、爽やかな未来を感じさせました。また、式典前後の日程で写真展・収蔵美術展を、同時期に那須与一伝承館で記念展「おたわらの歴史—原始から未来へ—」を開催し、多くの市民の方々に賑わいました。

今回の市史編さん事業は、市制施行70周年記念事業として、令和元年から6年計画で「既刊の市町村史誌を補完するもの」としてスタートしました。内容として、資料集3冊(令和3年『大田原市の郷土誌』・同5年『大田原市の自然』・同6年『大田原市の民俗』)をまとめ、昨年12月には、事業の集大成として、＜昭和29年から令和6年までの70年間の歩み＞を写真で綴った『大田原市史現代写真編—歴史を刻み大田原新時代へ—』を発刊し、その販売を開始しました。また、その間に調査研究の経過報告として『大田原市史研究』(全5号、第5号は3月17日発売)を毎年発行し、「市史セミナー」と題して講座や自然観察会を全6回開催しました。このほか本誌で「市史編さんだより」(vol.1～53)を連載するなど、事業は多岐にわたりました。余談ですが、市史編さん係の執務室(市史編さん委員会事務局)は日常的に職員の誰かが取材や調査に出掛けていて、たいがいガランとしていました。企画、調整、取材、執筆と、事務作業との兼務にいつも大忙しでした。

市史の大きな役割は、史実を正確に記録し未来へと継ぐことです。それを担った令和の市史編さん事業も、本年度で完結です。これも市民の皆さまの絶えざるご協力・ご支援の賜物です。最後になりますが、本当にありがとうございました。

※市史刊行物の販売について、詳細は市HPをご覧ください。

(市史編さん委員長 海老原 郁雄)

問 文化振興課 A別館2階 TEL 0287-47-5031

市史編さん事業の完結 ～皆さまありがとうございました～



市史編さん係執務室

